

訪日客向け街歩きマップの制作
—建物の空間情報と観光ルートを中心に—
Design of Street Walking Map for Foreign Tourists to Japan
-Focusing on Spatial Information of
Buildings and Tourist Routes-

学籍番号：201621652

氏名：張 丹荷
Danhe ZHANG

近年、観光立国政策の推進により、日本を訪れる外国人観光客はますます増加している。その中で、日本の伝統文化より生活文化に着目する訪日客が増えてきたことにより、繁華街での街歩き、ショッピングといった観光行動は多くなっている。そのため、都市空間における観光環境の整備は重要な課題となっている。また、日本の都市空間では、過剰な表出物による視覚情報の氾濫が見受けられる。都市空間に不慣れな訪日客は、限られた時間内で目的地を効率的に見つけることや、経路上をスムーズに移動することが非常に難しい。しかし、従来の観光地図では、都市の空間情報が提示されていないため、訪日客への観光支援は不十分である。さらに、街頭での Wi-Fi 環境が不安定であることから、モバイルデバイスを用いた経路案内を行うことが難しいと判明した。

そこで本研究では、建物の空間情報と観光ルートを中心に提示する訪日客向け街歩きマップを提案した。

提案手法では、しかけ絵本の技法に基づいた立体構造を用いて、観光スポットと目印となる建物を表示することで、繁華街の空間構成を直観的に把握することができる。また、テーマと滞在時間を考慮した観光ルートを提示することで、短時間で推奨スポットを効率よく周ることができる。この地図の使用により、訪日客は目的地へのスムーズな移動が可能になり、滞在時間内で快適に観光することができると予想される。

評価実験では、五段階評価アンケートの平均点は全て 8 割以上の点数を獲得、自由記述アンケートもおおむね高い評価が見られた。考察については、建物の空間情報の提示は、都市空間におけるスムーズな移動に有効であると確認された。また、多様性のある観光ルートの提示は、短時間の都市観光に有効であることが分かった。さらに、立体構造による観光内容の提示が、使用者に利便性と楽しさを与え、観光体験の質の向上が可能であると示唆した。

今後、立体構造の調整や、目印となるスポットの追加を行っていくことで、よりスムーズな移動や快適な観光を支援できると考えられる。また、多言語での対応、より多様性のある観光ルートの提示について、検討を重ねる必要があると考えられる。また、提案手法はより多種多様なテーマや、ほかの観光地での応用が期待される。

研究指導教員：金 尚泰
副研究指導教員：森田 ひろみ